

臨時レポート

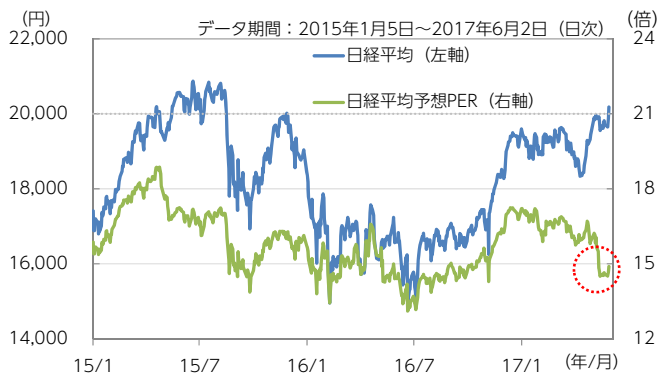
# 日経平均株価が2万円台回復

## 堅調な米国経済や日本企業の好調な業績見通しが下支え

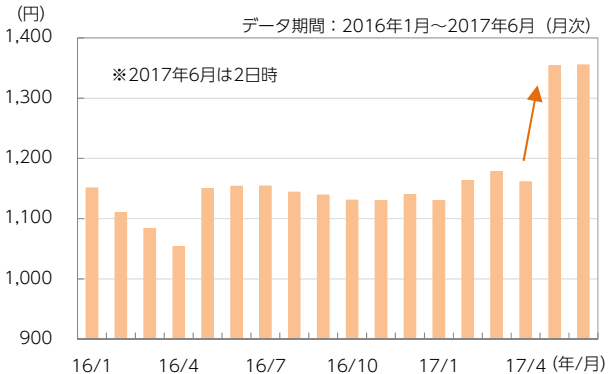
- ▶ 日経平均株価が1年半ぶりに2万円台を回復。業績拡大観測等を背景に海外投資家が積極買い。
- ▶ 更なる業績上方修正期待や相対的な出遅れ感等から、日本株の堅調地合いは当面続くものと思われる。但しトランプ政権の政策運営の不透明感等で一時的に波乱の展開となる可能性も。

- 6月2日の東京株式市場で日経平均株価が2015年12月以来、1年半ぶりに2万円台を回復しました。地政学リスク等から同株価は5月から2万円台到達を目前に足踏み状態となっていました。ようやく節目を超えました(図表1)。上昇の要因は、堅調な米国経済や日本企業の好調な企業業績見通し等であると思われます。米国主導の世界的な景気回復期待の高まり等を背景に、日経平均ベースの予想EPS(1株当たり利益)は2017年5月に前月比約17%上方修正されています(図表2)。6月1日発表の法人企業統計(2017年第1四半期時点)では売上げに対する経常利益率が上昇していることが確認されました(図表3)。需給面で日本株の上昇をけん引しているのは海外投資家です。年初から4月第1週まで約1.2兆円超を売り越していた同投資家は4月第2週から5月第4週まで8週連続で日本株(東証1部ベース)を買い越し、この間の金額は約1.5兆円を超えています。日本企業の業績拡大が今後も続くとの見通しが背景にあるものと考えます。
- ①予想PER(株価収益率)は比較的低水準にあり、当指標からみた過熱感は乏しいと判断されること(図表1)、②業績予想の前提レートを1ドル105円~110円にしている企業も多く、為替が110円を上回る水準で推移すれば輸出関連企業を中心に業績の上方修正観測が高まる可能性があること、③主要国株式市場の中で日本株は出遅れていると思われること(図表4)等から、日本株の堅調地合いは続くものと思われます。但し、トランプ政権とロシアとの不透明な関係を巡る「ロシア・ゲート」疑惑や北朝鮮等の地政学リスク等の動向によっては一時的に波乱の展開になることも考えられます。

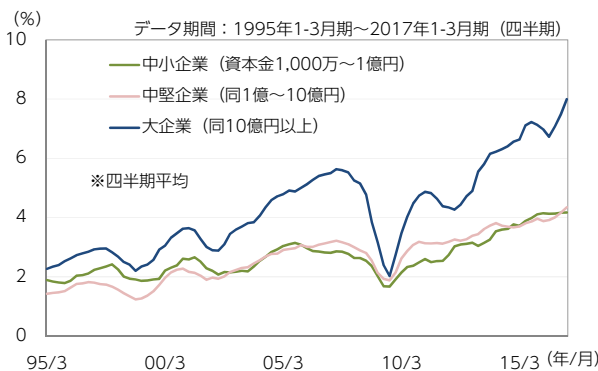
図表1：日経平均と同予想PER(株価収益率)



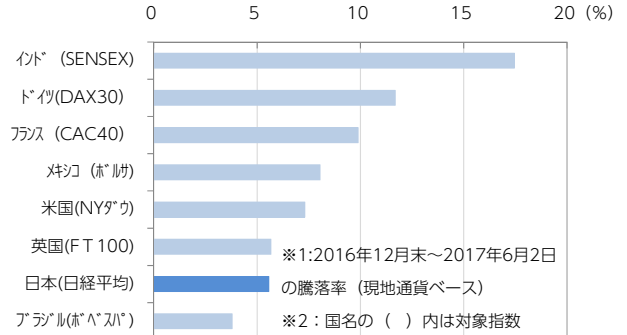
図表2：日経平均ベース予想EPS(1株当たり利益)



図表3：売上高経常利益率(法人企業統計ベース)



図表4：主要国株価の騰落率



出所) 図表1~2はニッセイ基礎研究所、図表3は財務省、図表4はブルームバーグデータを基にニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会